

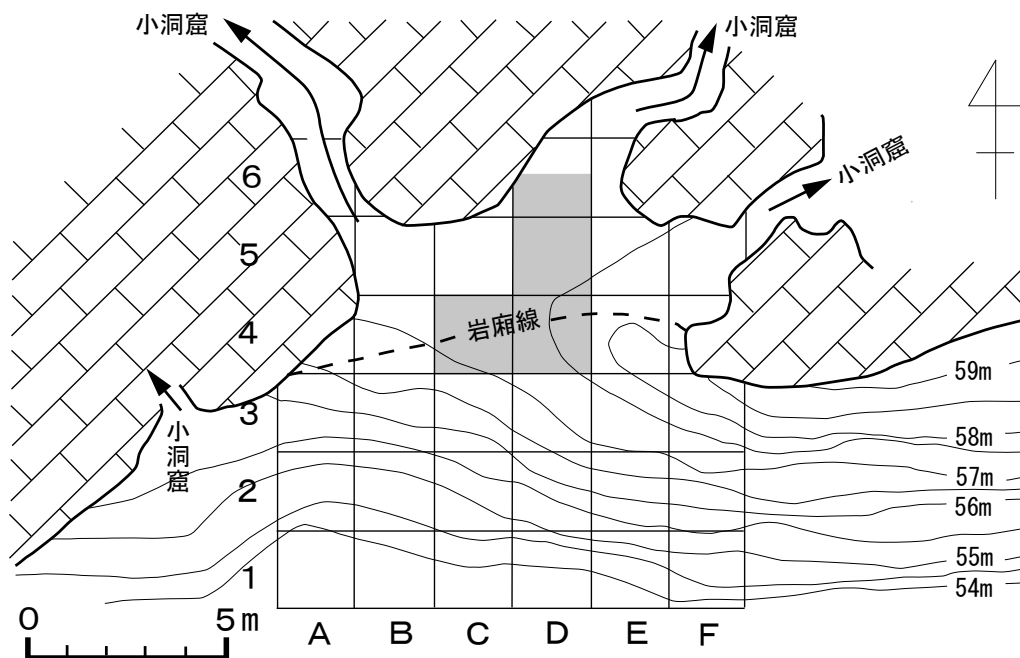


2012 年度 帝釈峡遺跡群発掘調査 II 期 (8 月 17 日～23 日)

帝釈大風呂洞窟遺跡第 17 次調査 II 期

帝釈大風呂洞窟遺跡は、帝釈観音堂洞窟遺跡の直上に位置しています。すぐそばを流れる岩屋谷川からの比高が約 57 m でかなりの急斜面中であり、辿り着くには結構な体力を要します。8 月の頭から何度も上り下りし、II 期ともなると大分慣れてきますが、何度か降った雨の影響で、足場の悪い中での往復となりました。本遺跡は、1996 (平成 8) 年から調査が開始され、本年度は 17 回目の調査です。これまでの調査で縄文時代草創期～早期から中世の遺物が発見されており、本遺跡が継続的に使用されたことが分かっています。

I 期では、2008 年度の調査で D-5 区にて検出されていた炉跡と思われる焼土面の調査を



第 1 図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図 (網掛け部が本年度の調査区)

行い、その下位や東側に新たな焼土が広が
ることを確認しました。さらにその南側に
近接する位置にシジミとサヌカイト製の石
鏃や剥片が集中して発見され、炉跡に伴う
一括の遺物とみられ、炉跡が形成された当
時の生活状況、使用状況を生々しく示して
いると言えます。

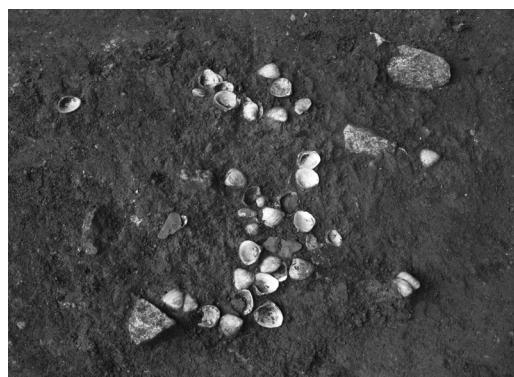


写真1 シジミ集中部検出状況

今期の調査では、I期に引き続いて、D
ー5区、Dー6区を中心に発掘を行い、遺
跡の使用状況、遺物・遺構の分布等を調査しています。Dー5区では縄文時代後期から前期
に当たる3層の掘り下げを行いました。北半ではI期の調査から引き続き炉跡と思われる焼
土の調査を行い2008年度の調査の時よりも範囲が広がり、数も増えることが分かりました。
南半ではI期に確認されたシジミの集中して出土した部分をさらに掘り下げ、その他の遺物
の出土状況を調査し、数点の新たなシジミや石器を発見しています。また、Dー4区との境
に近いあたりで縄文時代後期のものと思われる土器片も数点見つかりました。今後の掘り下
げによって遺物がさらに出土することが期待されます。Dー6区では、古代・中世にあたる
1～2層の調査が行われ、土師質土器片、動物骨、貝類などが出土しました。これらの遺物
から、この部分の利用状況などが、明らかになっていくと思われます。また、すぐ南側に接
する、Dー5区の同時期の炉跡などの遺構との関連性も考え、発掘を続けていきます。今回
出土した土器や石器などの遺物は調査終了後に大学に持ち帰り、より詳しく調査・研究して
いきます。今年の調査は残すところ1週間となりましたが、頑張って調査してまいりますので、
成果をご期待ください。(3年 中田南美)

コラム1 はじめての発掘

今回初めての発掘ということで、楽しみにしつつも、きつい肉体労働ばかりが待ってい
るのではないかと考えていました。1日目、いつも以上に個性的な先輩たち（特にAさん、
毎日非常に面白かったです）や、まさかの人骨に囲まれて就寝するなど、わくわくするこ
とばかり。2日目、調査初日、発掘した土の水洗が面白かったので、楽しく作業ができました。
ところが3日目、初めて山腹にある遺跡まで登ったのですが、前日の雨のためにぬかるん
だ山道で滑り、悲鳴上げていました。あのときだけは来なければよかったなと思うほどで
したが、もう慣れました。しかし、未だに慣れないのが朝早く起きることです。なぜこん
なにも朝が早いのでしょうか。肉体労働よりつらいのではないのでしょうか。本当に起きら
れないです。朝、アラームを設定していたというのに、私はまったく気が起きませんでした。
Fさんごめんなさい、これからも起こしてください。(2年 浅井美雪)

コラム2 獣骨とわたしと時々土器

こんにちは。学部2年の古久保と申します。春からこの研究室に入らせていただきまして、半年が経ちました。帝釈峡発掘調査も今日で6日目、徐々にここでの生活にも慣れつつあります。同時に、皆さんの本性もちらりほらりと垣間見え始めています。3年生は素敵だけれどどこか変わった人が多いようです。2年生の本当の姿を見ることが出来るのはもう少し先の話ですね。さて、大風呂遺跡の発掘を一週間にわたり行ってきたわけですが、最初の方はもう何をしてもよいやら分からず、ただただうろうろと遺跡内を徘徊するばかりでした。そのような手探りの状況ながらも、自分で獣骨や土器片を見つけた時のうれしさといったら、言葉では語りつくせないものです。今回特に、私は掘削作業を中心に行わせていただき、未発掘の調査区から遺物を発見するという経験は新しいものであると同時に、たいへん貴重なものとなりました。調査では、遺跡を掘って、土を土のうに詰めて、その土を洗って小さな遺物を探してと、かなり体力を使う一方で、掘り方を考えたり遺物を観察したりと、かなり頭も使います。ですが、満足感があります。発掘とは面白いものですね。余談ですが、帝釈峡の夜空は大迫力です。天の川が見えました。(2年 古久保 茜)

8月19日 現地説明会

8月19日に神石高原町教育委員会と共催で現地説明会を行い、これまでの調査成果を発表しました。参加者の中には広島市など遠方からお越しの方もおられ、活気ある説明会となりました。

説明会後には神石高原町教育委員会のご厚意により、交流会の意味も込めたバーベキューが行われ、調査者と説明会参加者の親睦を深める非常に良い機会となりました。



写真2 現地説明会風景

8月21日ゆきキッズクラブ

今年も油木小学校の子供たちが発掘調査体験にやってきました。今年は水洗作業で土器などの遺物が見つかり、子供たちも楽しくできたようで何よりでした。

今回参加した子供たちの中から、私たちと同じ考古学の道を進む子がでて、将来一緒に発掘できることを祈ります。



写真3 子供たちの発掘調査体験風景

人物往来

8月19日 現地説明会参加者の方々

8月21日 ゆきキッズクラブ（油木小学校の子どもたち）

8月22日 勝部研究科長・文学部事務室御一同

参加者名簿（Ⅱ期 8月17日～23日）

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

准教授 竹広文明

大学院生 松永直輝（M1）

広島大学文学部学生 赤木智香・上利碧月・川添敦史・中田美南・林美和（3年生）

浅井美雪・古久保茜（2年生）

陣中見舞い

勝部研究科長・文学部事務室御一同

スイカ・飲料

西別府元日先生 飲料

中越利夫先生 飲料

神石高原町教育委員会 肉・飲料

油木公民館 飲料

赤木さん トマト

明賀さん トマト

長井さん お米

編集後記

早いもので今年度の帝釈大風呂洞窟遺跡の発掘調査も残り1週間となりました。これまでの調査ではD-5区で3層、D-6区で1層から調査を行い、炉跡などの遺構が検出されたほか、縄文土器や土師質土器、鏃などの石器が出土しています。炉の近くからはシジミが集中している部分が確認され、一括性の高い資料として注目されます。しかし、炉跡以外の遺構は見つかっておらず、洞奥の使用状況を探るためにも、Ⅲ期にはさらに掘り下げ、どのような遺構・遺物が存在するのか明らかにしていきたいと考えています。

残り少ない期間ではありますが、精一杯調査してまいりますので成果をご期待ください。

（編集松永）

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山 1-2-3(Tel: 082-424-6663)

帝釈峡遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈未渡野田原 (Tel: 08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>